

地域の中で母子を見守る場と時間を

妊婦・子育て中の母親が子どもを産み育てることに不安や孤立感なく、安心して子育てを楽しめるように、各地でママカフェが運営され、子育てに役立っている。震災後は、母親は特に取り巻く環境の急激な変化による悩みや不安を抱えることも多かった。母子が地域やコミュニティの中で孤立したり、周囲に気兼ねしたりすることなく安心・安全に過ごせる時間や場所が必要である。

| たまには子どもとゆっくり食事がしたい

震災の有無にかかわらず、平常時から妊婦や子育て中の母親たちは不安になったり、育児に悩んだりすることがある。そこで、その不安やストレスから解放され、孤立しないような環境が必要となってくる。震災後は平常時以上に不安を抱える中、ママカフェを利用する母親たちから、「仕事が忙しくて帰りが遅く、夕食は子ども1人で食べさせている」「食事の支度に追われずに、たまにはゆっくり子どもと話しながら夕食をとりたい」「生活困窮世帯は外食する機会がない」などの声が聞こえてきた。

| ママカフェを進化させて「ママこども食堂」

あるママカフェの運営団体は、月に1回のペースで新たに「ママこども食堂」を開始した。1回の利用額は親子合わせてもワンコイン以下に設定。食事だけでなく、食後には子どもたちが一緒に遊んだり、母親同士が情報交換したり、親子が楽しめる場を提供した。

また、母親だけでなく、父親や地域の人々ができる地域の交流の場として、様々な施策を実施した。

| 活動のポイント！

- 貧困対策を前面に出さず、子どもたちを中心に誰もが集える地域交流の場と謳って、参加しやすいようにした。
- 参加した母親が「相談する」のではなく、会話を通じて悩みを共有し、地域や人とつながる場となるような雰囲気づくりを心掛けた。
- 運営スタッフは子どもたちを見守りながら、子どもが抱える課題を察知し、専門家へ支援につなげる役割も担う。
- ママを支援することから、パパへの支援へと子育て支援の幅を広げた。
- 運営資金として寄附金を活用したり、食材は企業や団体、農家からの提供を受けることで安定した運営ができた。
- 軌動に乗るまでは時間がかかるが、運営を続けることが大切。

| 参考事例

- [復興庁『男女共同参画の視点からの復興～参考事例集～』 No.61, 80, 87](#)